## ミサキ旗・三崎会長杯争奪野球大会

10月23日（日）にミサキ旗・三崎会長杯争奪野球大会が開催され、坂中学校野球部が準優勝しました。

▲坂中学校野球部

## 筆の里ありがとうのちょっと大きな絵てがみコンクール

**子どもの部**

**大　　賞**　三戸　櫻子（坂小学校２年）

**熊野町長賞**　下川　紗依（坂中学校２年）

## 中国新聞 みんなの新聞コンクール

**ジュニア新聞の部**

**中国新聞販売所連合会賞**　松田　彩良（坂小学校２年）

**佳　　作**　平田　美波（坂小学校５年）

## 税に関する作品の表彰

11月18日（金）に役場研修室で、「税に関する作品の表彰」を行い、町内の小中学校の児童・生徒を表彰しました。

### 安芸地区租税教育推進協議会 海田間税会主催 「税の標語」

**坂町教育委員会教育長賞**
水本　陽向（坂小学校６年）

**坂町教育委員会教育長賞**
梶谷　望叶（坂小学校６年）

**坂町教育委員会教育長賞**
賀屋　斗磨（横浜小学校６年）

**安芸地区青色申告会連合会会長賞**
時川　紗幸（横浜小学校６年）

**海田税務署長賞**
渡邉みなみ（小屋浦小学校６年）

### 全国納税貯蓄組合連合会 国税庁主催 「税についての作文」

**安芸地区納税貯蓄組合連合会会長賞**
畠山　姫嘉（坂中学校３年）

**安芸地区青色申告会連合会会長賞**
宮脇　　叶（坂中学校３年）

**全国納税貯蓄組合連合会感謝状**
団体賞　坂中学校３年

▲後列左３番目から　坂中学校校長、宮脇君
前列左から　畠山さん、時川さん、賀屋君、渡邉さん





## 坂町道徳作文コンクール入選者決定

町内在住の小学５年生から中学３年生を対象に、「道徳」に関する作文を募集したところ、多数の応募があり、厳選なる審査の結果、入選者が決定しました。

特選作品を順次、掲載します。今後とも、道徳心の向上に心がけ、地域・国際社会に貢献できる主体性のある「坂町っ子」となられますよう期待します。

### 特選（５作品）

**小学校５年の部**
村上　采嶺（坂小学校）

**小学校６年の部**
秋津　衣子（坂小学校）

**中学校１年の部**
黒瀬　小春（坂中学校）

**中学校２年の部**
福永　和夏（坂中学校）

**中学校３年の部**
川崎　拓海（坂中学校）

### 入選作品（16作品）

**小学校５年の部**
渡部　瑛太（横浜小学校）
仲野　結葵（横浜小学校）
北本　祥子（横浜小学校）
奥田　誓一（横浜小学校）

**小学校６年の部**
津麥　愛菜（横浜小学校）
時川　紗幸（横浜小学校）
今田惺士郎（坂小学校）
山﨑　浩暉（坂小学校）

**中学校１年の部**
菅　　夢叶（坂中学校）
池田　美結（坂中学校）
橋本　音花（坂中学校）

**中学校２年の部**
藤井すみれ（坂中学校）
濱井　美音（坂中学校）
渡子優梨加（坂中学校）

**中学校３年の部**
三浦　野愛（坂中学校）
北野　沙依（坂中学校）

### 特選作品

## 声をかけて

**坂小学校５年　村上（むらかみ）　采嶺（あやね）**

「ドサドサドサ。」

図書館に本を借りに行った帰り道のことだ。私は、早く本を読みたかったので走って帰ることにした。私が走り出そうとしたとき後ろで音がしたのだった。

後ろをふりかえってみると、小さな赤ちゃんをおんぶひもでかかえていたお母さんがいた。下を見ると、お母さんの買った野菜や日用品などがたくさん転がり落ちていた。お母さんはすごく大変そうであせっているように見えた。

「大丈夫ですか。拾いますよ。」

と、私は声をかけるはずだった。でも、なぜか言いだせなかった。（手伝ってあげればお母さんが助かる。でもやっぱりはずかしいし、早く本が読みたいな。）助けてあげないといけないという気持ちと自分の弱い気持ちが心の中で戦っていた。しかし、結局、弱い気持ちが勝ってしまった。私は声をかけることができず走り去って家に帰ってしまった。（ごめんなさい。ごめんなさい。）

私は心の中で何度も謝った。その日の夜はなかなか眠れなかった。（あのお母さんは一人で全部拾ったのかな。それとも他の人が助けてくれたのかな。）いろいろなことが気になってしまって、たくさん後悔した。

次の日、私は友達と公園で遊ぶ約束をしていた。遊んでから少し休けいしようとベンチに座った。すると友達が声をかけてくれた。

「元気ないね。何かあったの。」

私が、実はね……と言おうとした時、車いすに乗っている人が公園の外の道にいるのを見つけた。少し目が見えにくいようだった。そして、車いすの人が近くに来た時、

「ちょっと待ってて。」

と、友達はすばやく立ち上がって走っていった。

「ここにだんさがあるので、少し車いすを持ち上げますね。」

友達はそう言ってすばやく声をかけて助けた。車いすに乗っていた人は、

「ありがとう。目が見えなくなって、もう少しでけがをするところだったわ。本当にありがとう。」

車いすの人はうれしそうだった。友達がもどってきた。

「あの人がけがをしなくてよかった。ありがとうって言われると心がすっきりするよね。」

友達はすがすがしい笑顔で私に言った。私は昨日のことを思い出した。次こそは自分の弱い気持ちに勝って人を助けると心にちかった。

それから数日後、私は電車に乗った。たくさん歩いてつかれていたので、私は空いている席を見つけるとすばやく座った。そして、次の駅に着くとたくさんの人が中に入ってきた。その中につえをついたおじいさんが乗ってきたのを見つけた。おじいさんは手すりがあるところまでゆっくりと歩いて立っていた。

（よし、今だ。）私はおじ